

令和6年度 第1回学校評価（7月実施）結果

重点目標

教育目標「ゆめをもって 自分らしく はつらつと生きる子」

⑤ なかよく思いやりのある子
⑥ がんばりがきき、ねばり強い子

⑦ かんがえを深め学び続ける子
⑧ わたしもあなたも健康な子

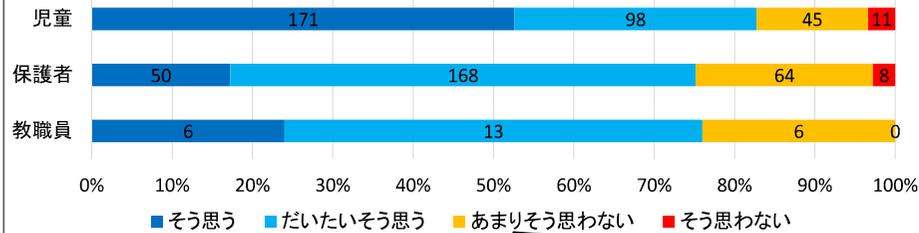
※ 児童アンケート⇒「わたしは」、保護者アンケート⇒「わたしの子供は」、教職員アンケート⇒「中川小の児童は」で書き出しています。児童用は、低・中・高学年用に分けています。

「そう思う」「だいたいそう思う」の合計が70%以上 ⇒ ○ 評価が良い項目
「あまりそう思わない」「そう思わない」の合計が30%以上 ⇒ ● 評価が良くない項目

⇒ ……今後の取り組み

A【学校教育目標について】

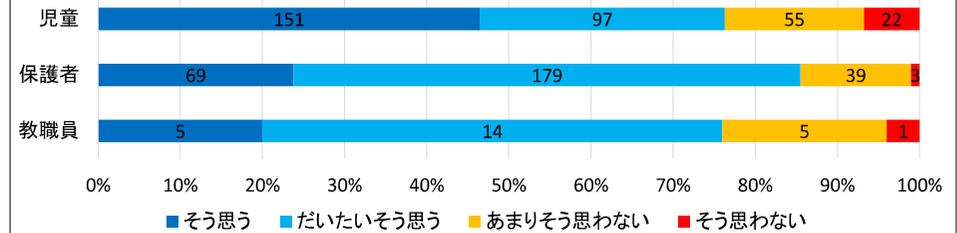
A①目標をもち、ねばり強く取り組んでいる。



項目1「目標をもち、ねばり強く取り組んでいる」

[分析]
昨年度の結果と比べて、児童の高評価が増えています。児童は、目標達成に向けてねばり強く取り組み、成果として感じることができた子が増えているのだと推測されます。普段から教員が児童の頑張りを認める声掛けなどが後押ししているのだと思います。
[今後の取り組み]
今後も、児童が頑張りがちなような学習活動や行事を設定していき、達成感を得られるような声掛けや振り返りを工夫していきます。保護者には、そういった児童の姿を伝えられるように学校・学年便りでお知らせしていきます。

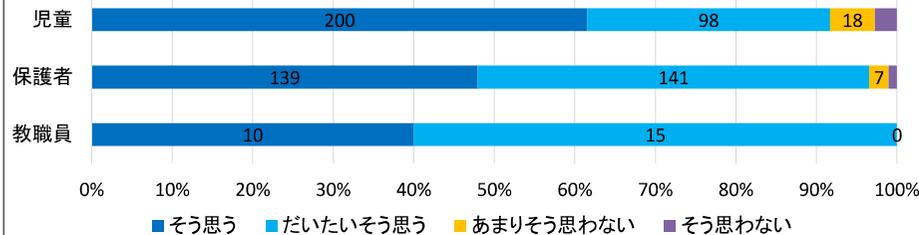
A②自分のよいところを知っている。



項目2「自分のよいところを知っている」

[分析]
生活委員会を中心に、「金のスマイルカード」イベントを実施してよいこと見付けの活性化を図りました。そのおかげか、児童の高評価は昨年度より少し増えましたが、約4分の1は低評価のままです。保護者の高評価も増えているので、子供が自分のよさを自覚して前向きに過ごしている姿を認めることができているのだと考えられます。
[今後の取り組み]
これまでも学校全体で取り組んできている、「スマイルカード」の活用をより活発にし、他者からみた自分のよさを認識できるようになるとよいと考えます。教員の日々の声掛けなどでも自己肯定感を高められるよう、意識的に児童の頑張りを賞揚する場を設けていきます。

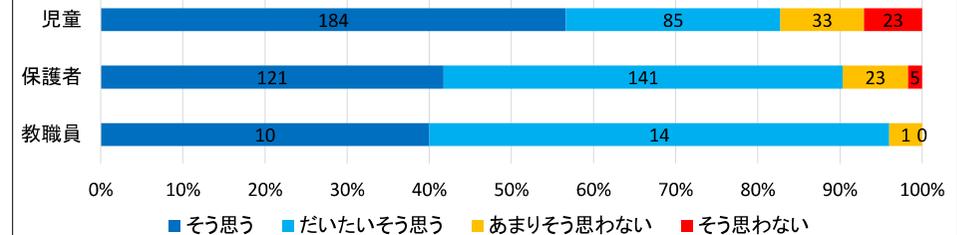
A③学校生活を楽しく送っている。



項目3「学校生活を楽しく送っている」

[分析]
昨年度に引き続き、「学校生活を楽しく送れていない」という児童が一定数いました。昨年度の第1回の結果よりは少ないですが、第2回以降、あまり改善ができていません。
[今後の取り組み]
学校が、安心できる自分の居場所になるように、日々の授業や行事等を通して取り組みを工夫していきます。特に、学級活動や道徳科の時間を中心に、児童の心を育て、個に寄り添った支援を心掛けます。その中で、児童も、よりよい人間関係づくりをし、学校という集団生活の場を楽しむことができるように支援します。

B④困ったことがあったときにお家の人に相談できる。

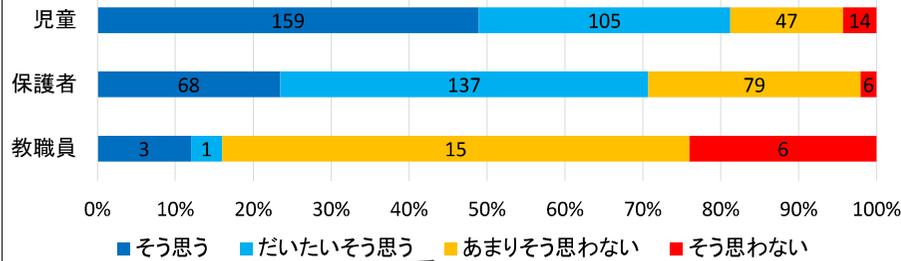


項目4「困ったことがあったときに先生やお家の人に相談できる。」

[分析]
児童の評価はあまり変わりませんが、保護者の高評価が増えました。御家庭で、意識的に相談できる環境を整えていただいていること表れかと思えます。
[今後の取り組み]
今年度も、毎学期「学校生活アンケート」や「いじめアンケート」など、定期的に相談できる場や時間を設けていきます。面談の仕方も工夫して、話しやすい環境をつくっていきます。それ以外でも、いつでも困ったことや悩んでいることがあったら、誰にでも相談できるように呼び掛け、早めの対応ができるよう職員一同情報共有して対応していきます。

B【生活について】

B⑤友達や地域の人に、自分からあいさつをしている。



項目5「友達や地域の人に、自分からあいさつをしている」

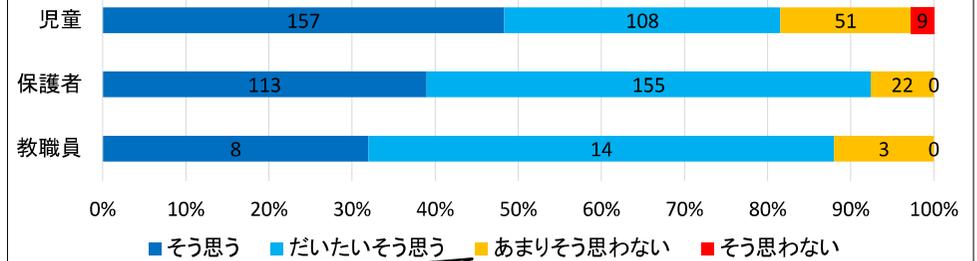
[分析]

昨年度と比べて、児童は変化なく、保護者は高評価が増え、教職員は低評価が増えました。児童の中には、朝の正門での挨拶のことで「あいさつしている」としていたり、「あいさつした人もある」という判定をしているようです。

[今後の取り組み]

教員が率先して、児童や来校した方により挨拶をしている姿を見せることで、見本になっていくことが大切だと考えます。そして、高学年から波及して学校全体により挨拶をいつもし合える環境をつくってまいります。

B⑥思いやりの気持ちをもって生活している。



項目6「思いやりの気持ちをもって生活している」

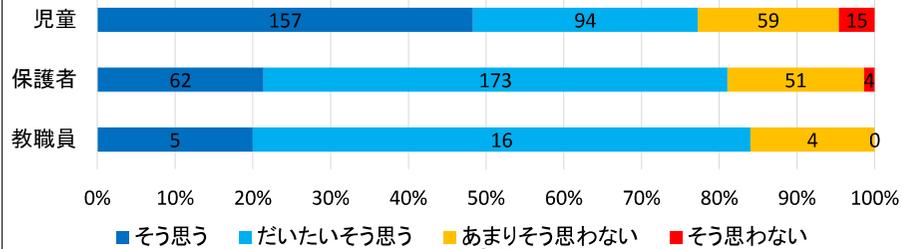
[分析]

昨年度の調査と比べて、児童の低評価が少し増えました。保護者の低評価は、少し減っています。児童の評価で、「思いやりの気持ちをもっていない」と答えた児童が9人(昨年10人)います。

[今後の取り組み]

学校では、引き続き児童のよい表れを賞揚し、思いやりの気持ちをもって接することのよさや大切さを実感できるようにしていきます。道徳科や学級活動の時間を中心に、人間関係づくりや、「思いやり」とは何か、相手の気持ちを考えて行動することの大切さなどを体験的に学ぶことができるよう、子供たちの実態に合わせて学習計画を立てていきます。

B⑦友達やクラス、学校のためになることを進んでいる。



項目7「友達やクラス、学校のためになることをしている」

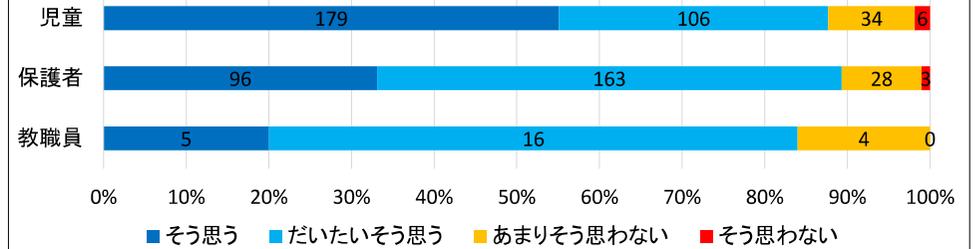
[分析]

昨年度と大きな変化はありませんでしたが、低評価の児童が2割以上います。学校は集団生活の場であるので、自分から進んで当番や係活動、清掃等に取り組むことができるように意識付けさせていきたいと考えます。

[今後の取り組み]

学校では、当番活動や係活動、清掃等、頑張っている児童を賞揚する場面を増やしていきたいです。その中で、当番活動や係活動などの仕事の意義をしっかりと理解させていくことも重要であると考えます。当番や係の仕事でなくても、自分で気付き、考えて行動できる子もいますので、そういったことがとても価値のある、大切なことであることを児童に伝えながら賞揚していきます。

B⑧きまりを守って生活している。



項目8「きまりを守って生活している」

[分析]

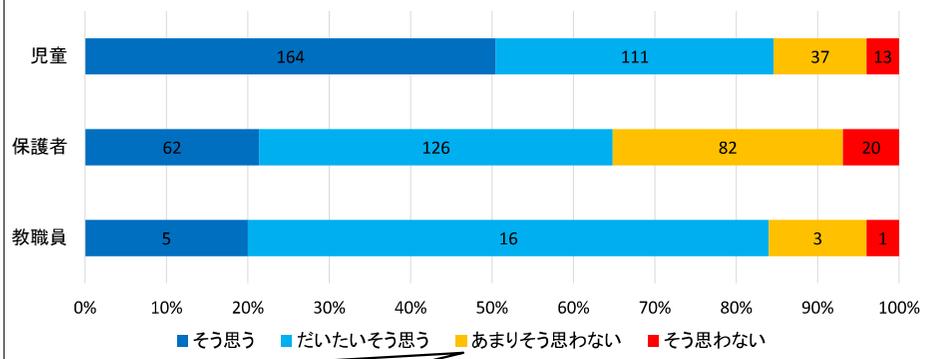
昨年度より、低評価の児童が少し増えました。「きまり」を守ることができていない、と自覚している児童が増えたので、日々の生活の中で周囲から注意される児童が増えている、ということかもしれません。

[今後の取り組み]

まずは、「学校のきまり」について、より徹底して周知することが必要であると考えます。定期的に確認する機会をクラスごとに設けたり、学校全体で必要に応じてお知らせをしたりして明確化していくことで、「きまり」についての意識を高めていきたいです。「月のめあて」の振り返りなどと連携して、季節に合った学校での過ごし方なども確認していきたいです。

C【学習について】

C⑨家庭学習に自分から進んで取り組んでいる。

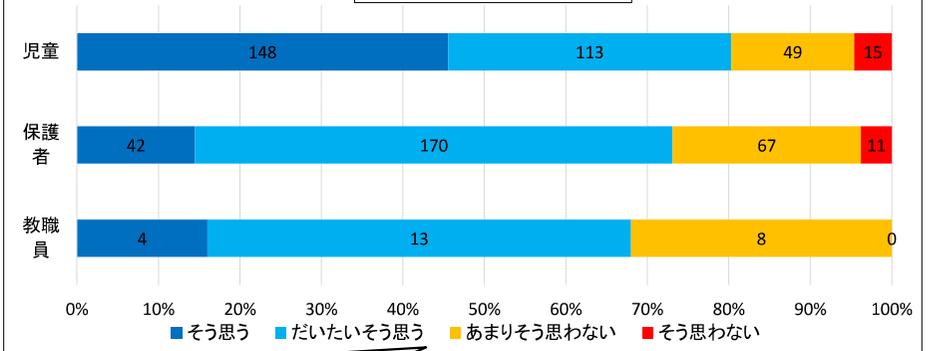


項目9「家庭学習に自分から進んで取り組んでいる」

[分析]
 全体的に、昨年度より高評価の割合が増えました。しかし、相変わらず保護者の評価が低めなのは、家庭で保護者が苦労して宿題をさせていたり、嫌々やっている様子から「進んで」ではない、という評価をしたりしているからかもしれません。教員の評価が高いのは、結果的にほとんどの児童が宿題を出すことができているからであると考えます。

[今後の取り組み]
 家庭学習の量や内容は、学年ごとに実態を踏まえて検討しながら決めています。今年度は、秋からタブレット(Chromebook)の持ち帰りを行い、デジタル教材を家庭学習に取り入れる方法を実施する予定です。家庭での学習時間の確保が、学力の定着に大きな影響を与えますので、児童が頑張る様子を認め、励ましながら取り組んでいただくとありがたいです。

C⑩学習をよく理解している。

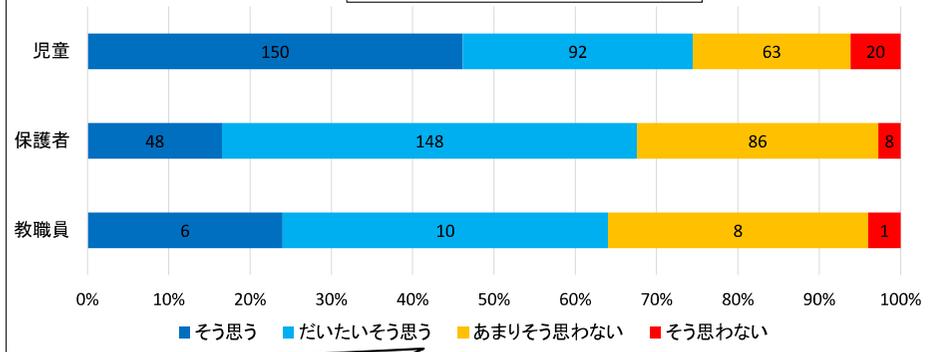


項目10「学習をよく理解している」

[分析]
 昨年度より、保護者の評価が少し上がりました。児童と教職員については、特に変動はありませんでした。児童の約2割が低評価でしたので、この2割をどのようにして「わかった」と言えるようにできるかが、今後の授業づくりの課題になってくると考えます。

[今後の取り組み]
 後期に向けて、少しでも「理解できた」という実感をもつ子が増えるような授業づくりを工夫していきます。児童にとって魅力ある授業づくりをすることで、「わかる」「できる」体験を積んでいくことができます。学ぶ楽しさや喜びを実感しながら、学力の定着を図っていけるよう、教材・教具の準備はもちろんのこと、学び方についてもより一層研修していきます。

C⑪自分の考えを進んで伝えている。

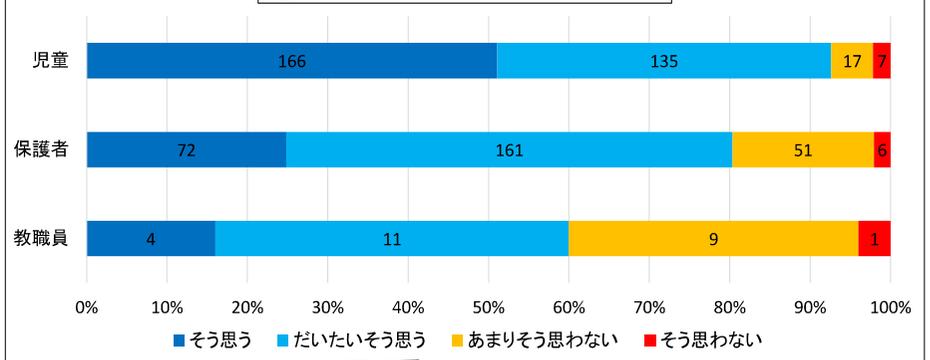


項目11「自分の考えを進んで伝えている」

[分析]
 昨年度後期の結果とあまり変わりませんでした。昨年度は、前期から後期にかけて、大きく評価が向上した項目です。しかし、未だ2割5分～3割の児童が低評価を付けています。自分の考えを相手に伝えるには、自分の思いを言語化しないとけません。総合的な力が求められるので、苦手に感じている児童が多いように思います。

[今後の取り組み]
 自分の考えを相手に伝える方法や場面は、たくさんあります。一斉授業の中でみんなの前で発表したり、グループ学習で少人数に向けて話したりと、授業の中で様々な機会があります。子供たちが進んで自分の考えを伝えられるようになるために、グループ学習の方法を工夫したり、タブレット(Chromebook)を活用して情報共有の仕方を考えていく必要があります。今後も、タブレットの活用を充実させ、自分の考えをまとめて相手に伝える体験を増やし、伝える楽しさ、伝えてもらうことよさを実感できる授業づくりを進めていきます。

C⑫教師や友達の話をしっかり聞いている。



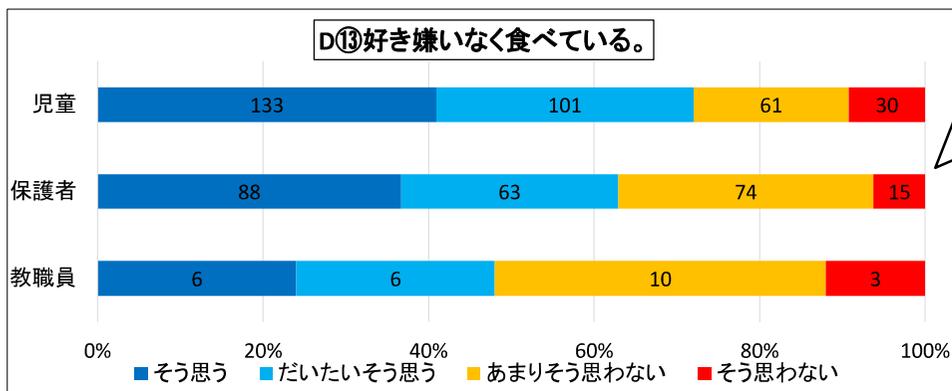
項目12「教師や友達の話をしっかり聞いている」

[分析]
 昨年度と比べ、教職員の評価が大きく低下しました。話をきちんと聞くことができないと感じている教員が増えました。全体的には、子供たちも環境に慣れ、落ち着いて授業に取り組む様子が見られるようになってきましたが、一定数の児童がいつまでも別のことに気をとられている様子が伺えます。

[今後の取り組み]
 子供たちが「聞く」「聞く」ことに集中することができる環境を授業中につくることが必要です。聞くべきときに聞くためのルールを構築したり、聞くことが、相手を大切にすることにもつながることなどを適宜児童に伝えたりして、日頃の話の聞き方について考えられるようにしていきたいです。項目10や項目11にも関わる項目ですので、児童が必要感をもって「聞く」力を高めていけるよう支援していきます。

D【健康・安全について】

D⑬好き嫌いなく食べている。



項目13「好き嫌いなく食べている」

[分析]

昨年度と比べて、全体的に低評価が増えました。特に、教職員の低評価が大きく増えています。給食の残菜自体は、4月当初よりは減ってきているとのことですが、既定の量を食べきれなかったり、苦手なものを一口も食べられなかったりする児童が多いため、教職員の評価が上がらなかったのではないかと推測されます。

[今後の取り組み]

給食でも、御家庭でも、児童がいろいろな食材をおいしく食べられるように工夫して用意して下さっています。例えば給食では、児童の興味を引くメニューを考案したり、地産産の野菜を使ったりと、子供たちが「食べてみたい」と思ってくれるような工夫をしています。今後も、児童が様々な食材から栄養を摂取していけるような取り組みを考えていきます。

項目14「進んで運動したり、外で遊んだりしている」

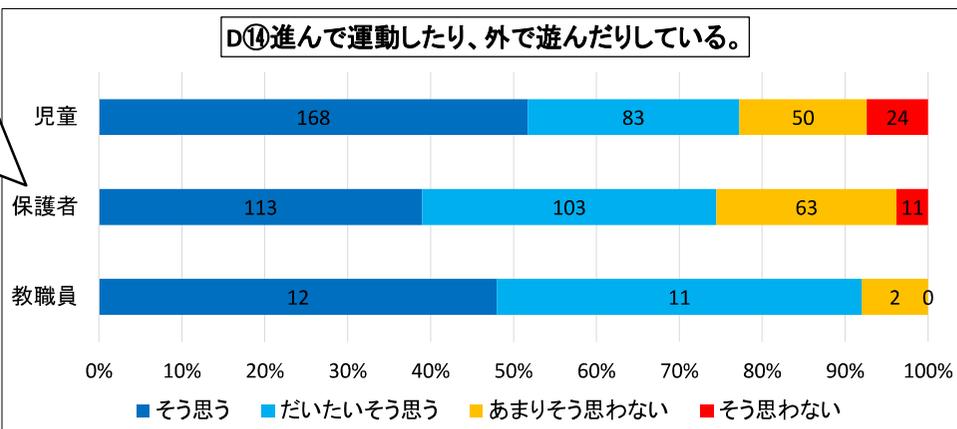
[分析]

昨年度と比べて、児童の高評価は増えましたが、保護者の高評価は少し減りました。今年は雨の日が続いたり、猛暑により熱中症警戒アラートが発表されたりと、外遊びをしにくい環境ではありました。その中でも、学校生活の中で外遊びができる日は、子供たちが大勢グラウンドに出て元気よく遊ぶ姿が多く見られました。また、多くの子供は、帰宅後は外遊びをせず家で過ごすことが多いようです。

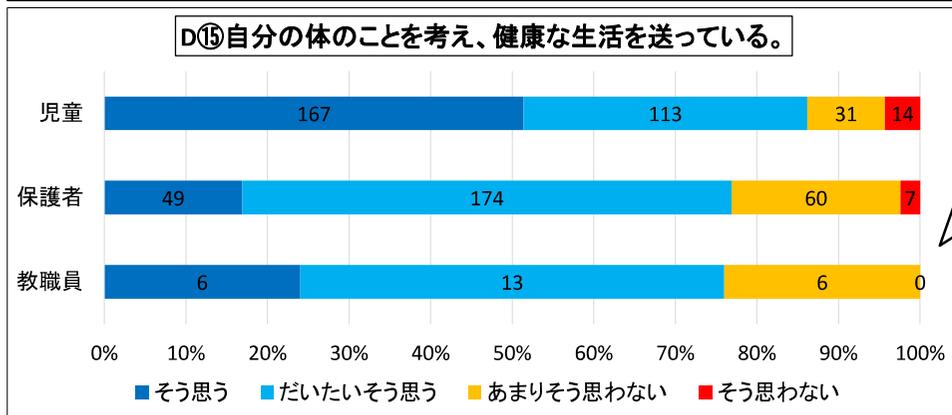
[今後の取り組み]

学校では、体育科の授業を中心に安全に楽しく体を動かす習慣作りに努めたり、昼休みに学級遊びの時間を設けたりしています。委員会でも、元気よく運動できるイベントを考えて実施しています。そういった様子も、しっかり保護者の皆様に伝えていきたいと考えています。地域では、外遊びができる場が限られますので、環境に応じて安全に楽しく運動する習慣を身に付けさせていきたいです。

D⑭進んで運動したり、外で遊んだりしている。



D⑮自分の体のことを考え、健康な生活を送っている。



項目15「自分の体のことを考え、健康な生活を送っている」

[分析]

昨年度と比べ、教職員の低評価が増えました。夜更かしをしている子や、項目13で好き嫌いの多い子がいる実態から、児童の健康状態を心配している様子が伺えます。特に、児童がメディアに触れる機会が増えているため、項目14とも関連して運動量が減ってテレビやタブレット・ゲームの時間が増えている現状を心配している声が多く挙がっています。

[今後の取り組み]

学校でのタブレット(Chromebook)の使い方指導の中で、家庭でのメディアとの付き合い方についても触れていきます。運動・食育・保健などの様々な観点について、児童の成長にとってよりよい取り組みができるよう、学活、道徳科、総合的な学習の時間、保健等の学習とも連携して支援していきます。各御家庭におかれましても、基本的な生活習慣の徹底に引き続き御協力ください。